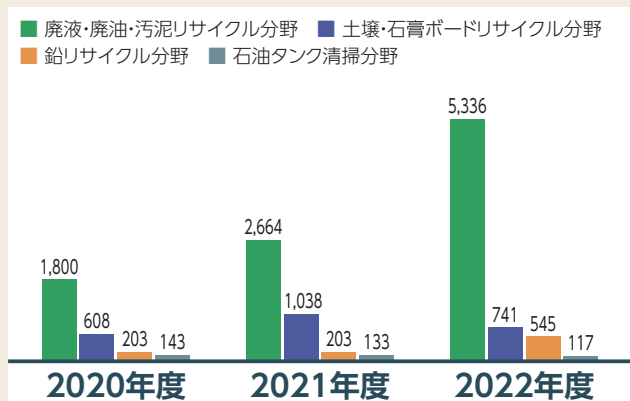


ダイセキグループの設備投資

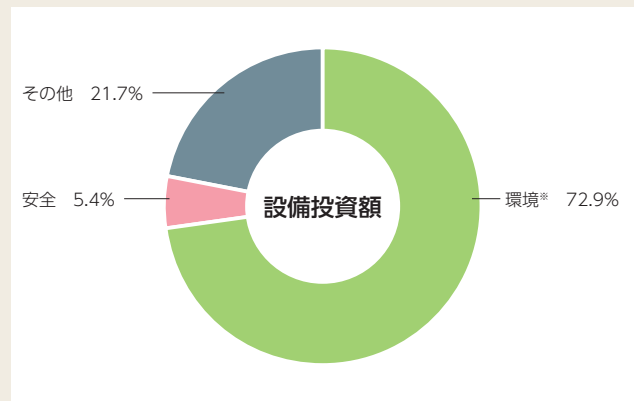
世界的にカーボン・ニュートラルへの動きが本格化するなか、
 当社のリサイクル中心の処理方法や再生燃料に対する社会的評価はさらに高まってきました。
 このような背景を受けて、中長期的な成長に向けた大型の設備投資を行っています。
 大規模な市場を有し、かつ相対的にダイセキグループのシェアが低い関東地区・関西地区において、
 業容拡大のための積極的な設備投資と営業活動に注力しています。

ダイセキグループの各分野別の設備投資額 単位：百万円



(注)廃液・廃油・汚泥はダイセキと北陸ダイセキ、土壌・石膏ボードはダイセキ環境ソリューションとグリーンアローズ中部・グリーンアローズ九州、鉛はダイセキMCR、石油タンク清掃はシステム機工の情報をそれぞれ記載。

ダイセキグループの目的別の設備投資額内訳 (2022年度)



(注)この設備投資額には土地の購入費用は含まない
 ※環境にはリサイクル推進、公害防止、CO₂排出量削減を目的とするものを含む

2022年度の主な設備投資実績

● 関西事業所播磨リサイクルセンターの新設(ダイセキ)

廃溶剤等が原料である補助燃料を製造する播磨リサイクルセンターが2023年1月に完成しました。播磨リサイクルから出荷された補助燃料は関西地区の製造業のお客様に石炭の代替として利用されます。播磨リサイクルセンターでは、補助燃料工場以外の施設も今後増強していく予定です。



播磨リサイクルセンターの補助燃料工場

● 広島事業所の新設(ダイセキ)

広島事業所を新設する目的は関西事業所と九州事業所との中国地区と四国地区のシェアの向上です。2021年8月に土地を取得し、2023年1月から工場建設を着手しました。2024年3月に稼働を予定しています。広島事業所には廃溶剤等を原料とする補助燃料工場を建設します。補助燃料は主に中国地区と四国地区の製造業のお客様に販売していく予定です。



建設中の広島事業所

● 九州事業所の処理施設増強(ダイセキ)

九州事業所では補助燃料の需要に応えるため、25億円以上の投資を行い補助燃料工場を増設しました。

2021年12月に着工し2023年6月に稼働を開始しました。

新しい補助燃料工場には廃油を1日に1,584m³処理する能力があります。この施設を活用してこれまで以上にお客様の期待に応えられるよう営業活動を強化していきます。



九州事業所の補助燃料工場

● 産廃処理施設の新設(ダイセキMCR)

2023年1月に平出工場の産廃処理施設が完成し、特別管理産業廃棄物処分量の許可を取得したことで、廃鉛バッテリーの中間処理を1か所で完結させることが可能となりました。

プラスチックの洗浄・破碎を行う設備を導入したことで、廃鉛バッテリーのプラスチック容器を再生プラスチック原料としてリサイクルすることができるようになりました。SDGsを考慮し環境負荷を抑えた最新の中間処理施設です。

UPS(無停電電源装置)等の産業用廃鉛バッテリーの処理ニーズに応えるため、安全でクリーンなリサイクル設備で、サーキュラーエコノミー社会の構築に貢献していきます。



ダイセキMCR平出工場の産廃処理施設

「VISION2030」を見据えた今後の設備投資計画

ダイセキグループは、多様化・複雑化する産業廃棄物の適正処理・リサイクル化のニーズに対処するため、技術力の向上、新設備の導入による処理・リサイクル可能品目の拡大、並びに積極的な設備投資と営業展開により、特に関東地区、関西地区の2つの大規模な市場を中心とした地域でのシェア上昇を目指し、業容拡大を図っています。

現在建設中の広島事業所に続き、南関東地区、東北地区で適地を探している新事業所についても、事業化の目処が付き次第、建設することを予定しています。

また現在売上高150億円規模の新規事業を3件立ち上げることを検討しています。

- ダイセキ本社
- ダイセキ事業所
- ダイセキ新事業所
(建設または計画中)
- 関連会社(本社のみ)

